

## 感情

第 20 期生 國武 淳哉

これまでの人生で経験してきた感情をすべてこの 2 年間で改めて経験したのではない。この卒業エッセイを書きながら 2 年間を振り返り、そんなことが頭をよぎった。ディベート大会に勝利したときには喜び、三田論の仮説が覆ったときには悲しみ、期限が迫る中思うような分析結果が出なかったときには焦り、三田論が何とか完成した時には達成感で満たされ、海外学会での発表の時には緊張し、卒論でロジックを上手く言語化できずに苦しみ、卒論集が完成した時には安堵した。少し振り返っただけでもこんなにたくさんの感情を抱きながら活動をしていたのだと思うと、小野ゼミで過ごした 2 年間の濃さを改めて実感する。

ここからは、そんな濃密な小野ゼミでの 2 年間を支えてくださったすべての方に感謝を述べたい。まず、小野晃典先生。2 年間のご指導、本当にありがとうございました。先生にはたくさんのご迷惑をおかけしてしまいましたが、それでも見捨てず、最後までご指導下さいました。自分は、優秀な先輩方や同期に及ばないところだけですが、小野ゼミで学んだことを活かし、いつか小野ゼミ OB として胸を張れるように邁進したいと思います。

そして、大学院生の先輩方。先輩方が優しく助けて下さるのに甘えてしまい、無茶なお願いをしてしまうことも多々あったかと思いますが、先輩方の知識や経験をフル活用し、いつもの確なアドバイスをくださり、本当にありがとうございました。

19 期の先輩方。オープンゼミで先輩方に出会わなければ、僕が小野ゼミに入ることはありませんでした。いつも優しく、小野ゼミの活動だけでなく、履修や就活のことまで、様々な場面で助けてくださったみなさんは、憧れの先輩です。本当にありがとうございました。

21 期のみんな。この 1 年間、みんなが楽しそうに活動している姿から元気をもらっていました。自分は、他の同期のようにみんなの役に立つようなアドバイスはなかなかできなかったけれど、頼ってくれてありがとう。これからも同期のみんなと仲良く、小野ゼミの活動を楽しんでください。

最後に同期である 20 期のみんな。この 2 年間、一緒に活動してくれてありがとう。みんなと色々な経験をしたこの 2 年間は、今までで一番大変な 2 年間だったけれど、同じくらい楽しく、充実した 2 年間でした。全員が全く違う性格で、得意なことや苦手なことも全然違って、バラバラな同期だということもあったけれど、ディベートや三田論、学会発表と、みんなと一つのチームとしてやり遂げた活動の一つひとつが大切な思い出です。本当にありがとう。